

モローと

ルオー

聖なるものの継承と変容

パナソニック
汐留ミュージアム
ルオーギャラリー

師弟を越えた、魂の絆。



GUSTAVE
MOREAU &
GEORGES
ROUAULT
(FILIACTION)

2013年9月7日(土) - 12月10日(火)

開館時間 | 午前10時より午後6時まで (ご入館は午後5時30分まで)
休館日 | 水曜日

入館料 | 一般: 1,000円、65歳以上: 900円、大学生: 700円、中・高校生: 500円、小学生以下: 無料
※20名以上の団体は100円割引 ※障がい者手帳をご提示の方、および付添者1名まで無料でご入館いただけます。

主催 | パナソニック 汐留ミュージアム、NHK、NHKプロモーション、東京新聞
後援 | 外務省、在日フランス大使館/アンステイチュ・フランセ日本、港区教育委員会、公益財団法人日仏会館、日仏会館フランス事務所
協賛 | 大日本印刷 協力 | エールフランス航空
特別協力 | ギュスターヴ・モロー美術館、ジョルジュ・ルオー財団

ギュスターヴ・モロー〈ユピテルとセメレ〉ギュスターヴ・モロー美術館 ©RMN-GP/René-Gabriel Ojeda / ジョルジュ・ルオー〈我らがジャンヌ〉1948-49年 個人蔵、パリ

Shiodome
Museum
ROUAULT GALLERY

THANKS
10TH
ANNIVERSARY

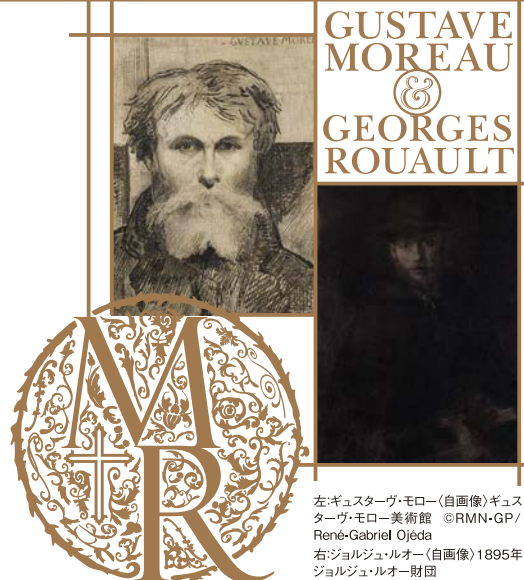


19世紀末パリー。“美しき師弟愛”の物語。

象徴主義の巨匠ギュスターヴ・モロー(1826-1898)。国立美術学校の名教授としてマティスやマルケなど多くの画家を育てたモローが最も愛した生徒がいました。後に20世紀最大の宗教画家と呼ばれるジョルジュ・ルオー(1871-1958)です。モローはルオーの才能を見抜き、熱心に芸術上の助言を与えました。ルオーはマティエールや内的ヴィジョンへの感覚を師から受け継ぎ、やがて自身の作品の中で我がものとしていきます。

「我が子ルオー」「偉大なる父」と彼らの往復書簡の中で呼び合う二人の間には、師弟を超えた特別な絆がありました。モローは遺言によりルオーをモロー美術館初代館長に任命し、自分亡き後も愛弟子を導き続けます。ルオーはモローへの感謝を生涯忘れることなく、精神的な父としてのその存在は彼の芸術と人生に深い影響を及ぼしたのです。

汐留ミュージアム開館10周年を記念する本展は、ギュスターヴ・モロー美術館館長監修により企画され、パリに先駆けて開催される世界初の二人展です。モロー晩年の未公開作品やルオーの美術学校時代の作品など日本初公開を多く含む作品がフランスからやってきます。油彩画、素描、書簡など約70点を通して、モローとルオーの芸術と心の交流の軌跡をたどる貴重な展覧会です。



左:ギュスターヴ・モロー(自画像)ギュスターヴ・モロー美術館 ©RMN-GP / René-Gabriel Ojéda
右:ジョルジュ・ルオー(自画像)1895年
ジョルジュ・ルオー財団

- 1 師モロー、弟子ルオー、世界初の二人展
- 2 来日する作品の半数以上が初公開
- 3 ギュスターヴ・モロー美術館館長渾身の作品セレクション



1.ギュスターヴ・モロー(バベルと死の天使) ©RMN-GP/René-Gabriel Ojéda
2.ギュスターヴ・モロー(一角獣)1885年頃 ©RMN-GP / Christian Jean 3.ギュスターヴ・モロー(ヘラクレスとレルネのヒュドラ) ©RMN-GP/Philippe Fuzeau
4.ジョルジュ・ルオー(夜の風景または作業場での乱闘)1897年 オルセー美術館 ©RMN-GP (musée d'Orsay) / Hervé Lewandowski 5.ジョルジュ・ルオー(聖顔)1933年 ポンピドゥーセンター国立近代美術館 ©Centre Pompidou, MNAM-CCI, Dist. RMN-GP / Droits réservés 6.ジョルジュ・ルオー(トリウスの家におけるコロラス)1894年 国立高等美術学校、パリ ©Ecole des beaux-arts, Paris / J.M.Lapellerie ※1-3 ギュスターヴ・モロー美術館蔵

画像提供: アジャンス・デ・ミューゼ・フランス(AMF)

関連イベント



オープニング記念講演会

講師 マリー・セシル・フォレスト氏
(ギュスターヴ・モロー美術館館長、本展監修)
9月8日(日) 午後2時~3時30分
主催:公益財団法人日仏会館・日仏会館フランス事務所・パナソニック汐留ミュージアム 後援:日仏美術学会
会場:日仏会館ホール(渋谷区恵比寿3丁目9-25)
詳細・申込方法については日仏会館へお問い合わせください。
tel 03-5424-1141 <http://www.mfjtokyo.or.jp>



山田五郎 アートトーク

人気テレビ番組「ぶらぶら美術博物館」(BS日テレ)などでおなじみの山田五郎さんがモローや同時代の画家たちについて楽しく美術談義します。
9月20日(金) 午後2時~3時(開場 1時半)
会場:パナソニック東京汐留ビル5階ホール
※要予約(定員200人)

スペシャルスライドトーク

ナビゲーター 後藤 新治氏(西南学院大学教授/本展日本側監修)
11月16日(土) 午後2時~3時(開場 1時半) 会場:パナソニック東京汐留ビル5階ホール
※要予約(定員150名)

「アートトーク」「スペシャルスライドトーク」の申込は汐留ミュージアムHPで各イベントの2ヶ月前から受け付けます。
※受付は先着順、定員になり次第締め切らせていただきます。※定員に達しなかった場合、当日受付をする場合があります。※聴講は参加無料ですが本展の入館券が必要です。

当館学芸員によるギャラリートーク

10月5日(土)、10月18日(金)、11月2日(土)、12月6日(金)
午後2時~(約30分)
※予約不要(当日展示室にお集まりください)

コラボレーション企画

パティシエ辻口博啓氏とのコラボスイーツ

人気パティシエ辻口博啓氏の豆スイーツブランド「フェヴ」がコラボレートした本展記念限定商品を販売します。



ロイヤルパーク汐留タワー [本展鑑賞券付き特別宿泊プラン]

ROYAL PARK
SHIODOME TOWER

展覧会を記念したホテルラウンジでのプロモーションも予定しています。

※コラボ企画の詳細は汐留ミュージアムHPを通じてお知らせします。

Shiodome Museum | ROUAULT GALLERY
パナソニック 汐留ミュージアム

©ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2013 B0214 この展覧会は、ジョルジュ・ルオー財団の協力のもと開催されます。Exposition réalisée avec le concours de la Fondation Georges Rouault.

次回予告 「メイド・イン・ジャパン 南部鉄器 一伝統、柳宗理、コンテンポラリー」 2014年1月11日(土)~3月23日(日)

